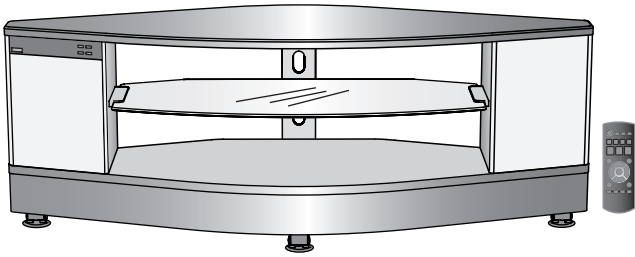
Panasonic

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番 SC-HTX7
SC-HTX5

イラストはSC-HTX7です。

困ったときは？

Q&A（よくあるご質問）：22 ページ
こんな表示が出たら：22 ページ
故障かな !?：24、25 ページ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

保証書別添付

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に**「安全上のご注意」（➜ 27 ～ 29 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

もくじ

「安全上のご注意」を必ずお読みください。
(→ 27 ～ 29 ページ)

はじめに

準備

楽しむ

困ったときは？他

付属品

付属品をご確認ください。

●●お願い●●

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は、買い替え時の品番です。
  (品番は 2008 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。)
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 電源コードキャップ及び包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。

包装仕様図

※キャスターを取り外すときに使用します。
(➔ 6 ページ)

付属品と別売品は販売店でお買い求めいただけます。パナソニックの家電製品直販サイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

CLUB Panasonic

Pana Sense

http://club.panasonic.jp/mall/sense/

別売品のご紹介

コード/ケーブル名	長さ	品　番	コード/ケーブル名	長さ	品　番
HDMIケーブル	(1.0 m)	RP-CDHG10	ステレオピンコード	(0.5 m)	RP-CAP3G05
	(1.5 m)	RP-CDHG15		(1.0 m)	RP-CAP3G10
	(2.0 m)	RP-CDHG20		(1.5 m)	RP-CAP3G15
	(3.0 m)	RP-CDHG30		(2.0 m)	RP-CAP3G20
光デジタルケーブル	(0.5 m)	RP-CA2005		(3.0 m)	RP-CAP3G30
	(1.0 m)	RP-CA2010		(5.0 m)	RP-CAP3G50
	(1.5 m)	RP-CA2015		(10.0 m)	RP-CAP3G100
	(2.0 m)	RP-CA2020			
	(3.0 m)	RP-CA2030			

ケーブル類は、置き方や接続方法などにより、必要な長さが異なります。ご購入の際は、長さを十分確認してください。

別売品の品番は、2008 年 12 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

○○お知らせ○○

本システムを壁に付けて設置する場合は、十分確認のうえ、設置してください。特にイコライザー付き HDMI ケーブルは、プラグの形状が大きいため、注意が必要です。

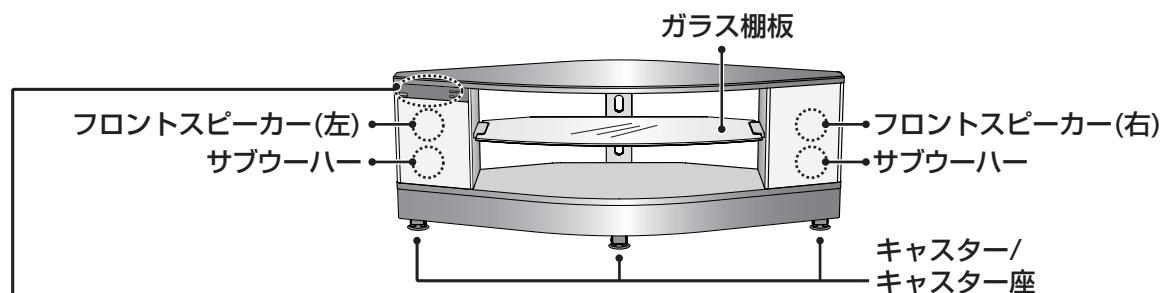
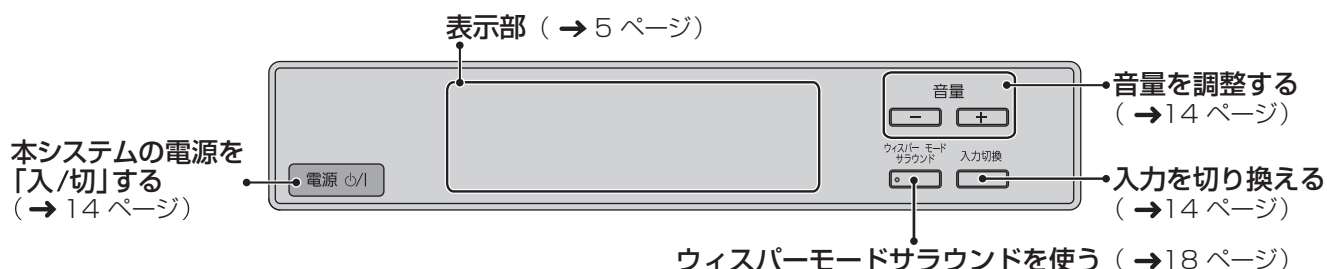
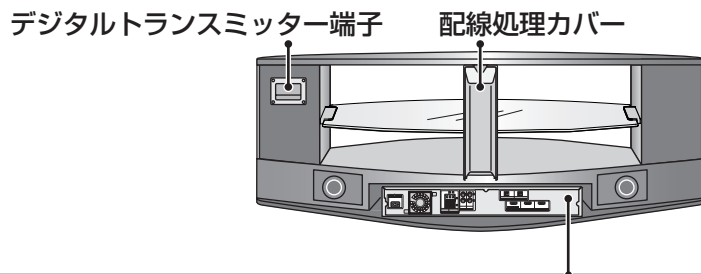
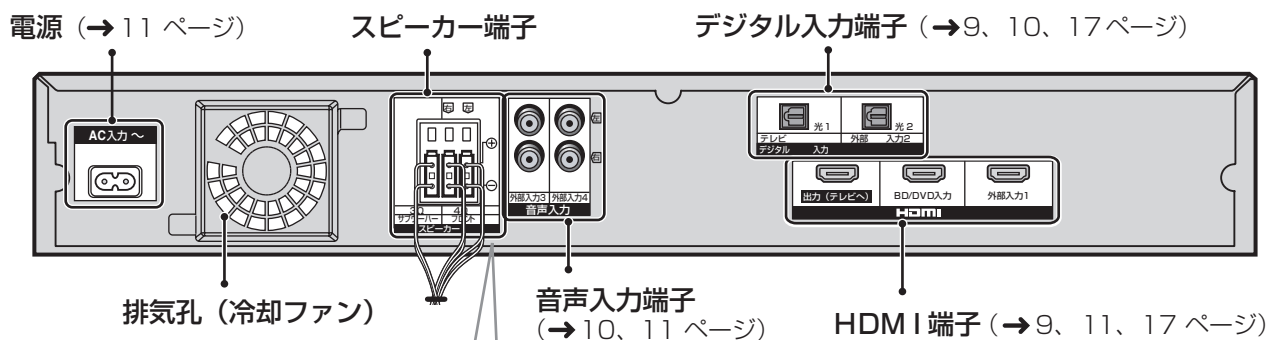
ワイヤレスシステムを使用する場合は以下のものをお買い求めください。

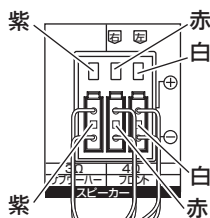
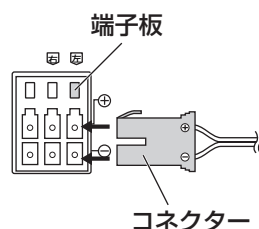
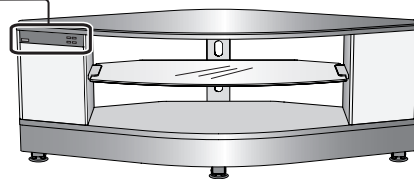
- SH-FX70（デジタルトランスミッターとワイヤレスシステムのセット）
- サラウンドスピーカー

各部のはたらき

本書では特にことわりがない場合、本システムのイラストは SC-HTX7 を使用しています。

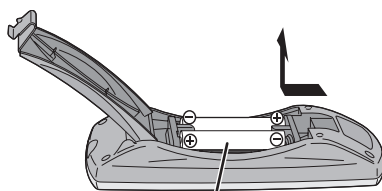
本体（ラック）

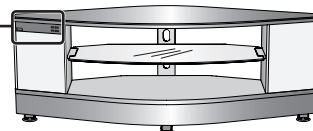
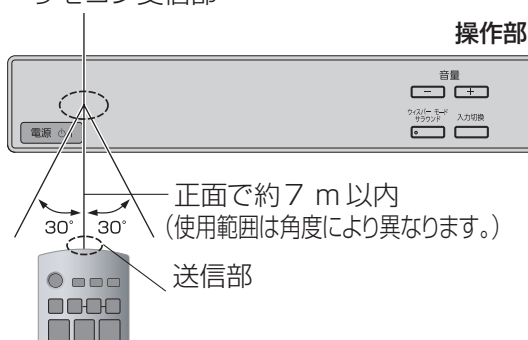
前面

操作部

後面

アンプ部

スピーカー端子について

本システムでは、スピーカーはあらかじめ接続されています。特に必要がなければ、コネクターには触らないようにしてください。コネクターがはずれた場合などは、右図を参考に接続してください。

表示部

AAC	：AAC 信号（BS デジタル放送など）を再生しているとき	SFC	：SFC が働いているとき
DIGITAL	：ドルビーデジタル信号を再生しているとき	PL Ⅱ	：ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき（2 チャンネルのステレオ信号にドルビーバーチャルスピーカーを使用したとき）
DTS	：DTS 信号を再生しているとき		
VS	：ドルビーバーチャルスピーカーが働いているとき		

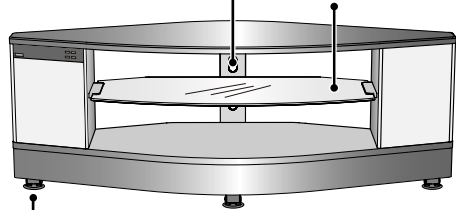
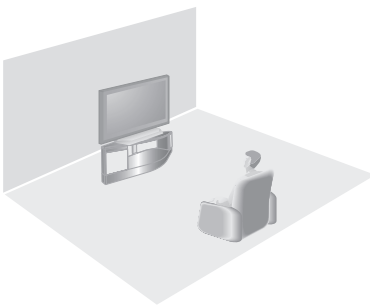
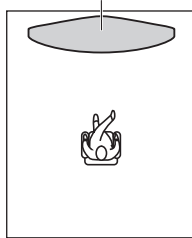
リモコン

リモコンの準備

乾電池の入れかた

電池はマンガン乾電池、またはアルカリ乾電池をお使いください。

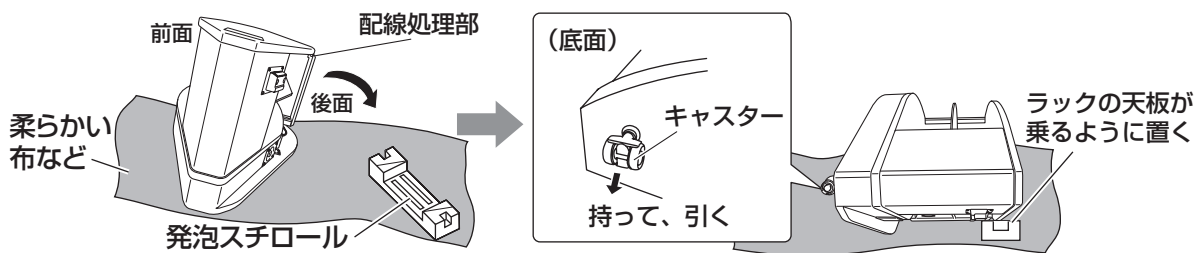
リモコンの使いかた

■使用上のお願い
- 受信部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受信部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受信部と送信部のほこりに注意。

ラックの設置と取り付け

設置について

■ 設置作業は 2 人以上で行ってください。
■ プラスドライバーを用意してください。
（電動ドライバーは使用しないでください。）
■ 不安定な場所を避けて、設置してください。
■ ガラス棚板の取り扱いには、十分にご注意ください。

- 転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつかないように設置し、テレビの転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。キャスターをつけている場合は、必ずキャスター座を敷いてください。
- 本システムは、本システムの後面を壁に付けて設置することもできます。ただし、ラックの取り付けや各機器の接続の際には、作業スペースが必要ですので、ご注意ください。
- 後面の排気孔をふさぐことになるので、カーテンなどの前には置かないようにしてください。
- 本システムを設置する際は、前面のスピーカー部のネットには、力を加えないようにしてください。
- 床材の素材によっては、キャスターの回転跡が残る場合があります。
- キャスターを取り外す場合は、下記をご覧ください。

キャスターを取り外す場合

- 不安定な場所では、キャスターを外してください。（畳、毛足の長いじゅうたんの上、やわらかい床材の上など）
- キャスターを外す場合は、包装時上側の中央に使用している発泡スチロール（➔ 3 ページ包装仕様図※印）を裏返して敷いて、その上に天板が乗るように後面側に倒してください。その場合、必ず 2 人以上で行ってください。
  発泡スチロールがない場合は、毛布など柔らかな布を敷いて前面側へゆっくりと倒してください。
- 後面側に倒すときは、配線処理部に負担が加わらないようにしてください。（配線処理カバーを取り付けている場合（➔ 8 ページ）は、外してください。）
- キャスターは、持って引くと外れます。
- キャスター取り外し時は、ラックの上や中には何も置かないでください。（アンプ部・スピーカー部は固定されていますので取り外す必要はありません。）
- キャスターを取り外してラックを移動するときは、天板裏側にしっかり指をかけ、2人以上で行ってください。（配線処理部は持たないでください。）持ち上げ方については、下記をご覧ください。

ラックの持ち上げ方

ラック中央部分の天板をラックの
前後から２人で持ち上げる

ラックについて

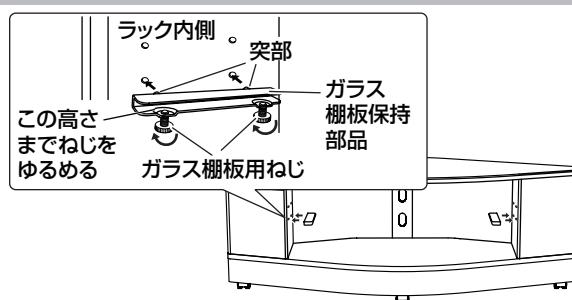
■ テレビ以外は置かないでください。特に以下のような物は置かないでください。

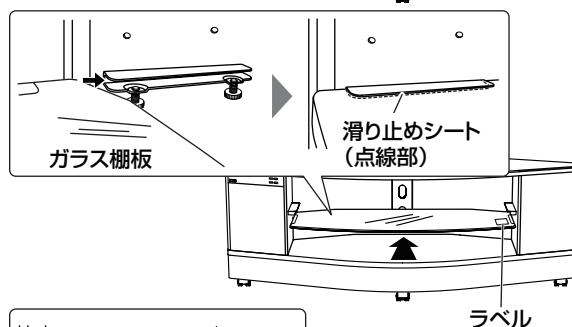
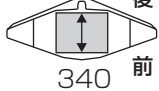
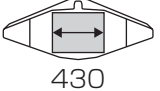
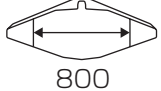
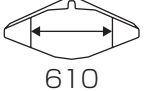
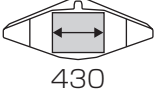
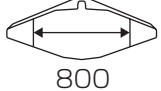
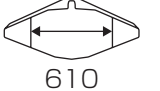
- **熱いもの**
  跡が付いて、取れなくなる場合があります。
- **水の入った花瓶など**
  倒れた際、水が本システムにかかり、故障の原因になります。

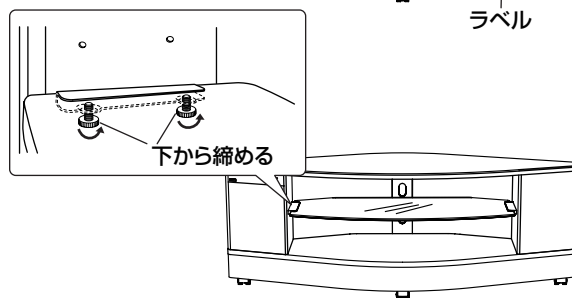
◯◯お知らせ◯◯
天板の上に置いたものを移動する場合は、持ち上げて移動してください。引きずると、ラックの天板を傷つけることがあります。

ガラス棚板の取り付け

1 ガラス棚板用ねじ（付属）をゆるめてから、ガラス棚板保持部品（付属）の突部をラック内側の穴に差し込む

- 左右同じ高さの穴に入れてください。
- 棚板の高さは、2 段階に調整できます。
- 棚板保持部品を差し込む穴を変えて、棚板の高さを調整してください。
- 棚板を設置しない場合は、棚板保持部品はなくさないように保管してください。

2 ガラス棚板保持部品の間にガラス棚板（付属）を手前から差し込む

- ガラス棚板はラベルがある方を上面、右側になるように差し込んでください。
- 両方のガラス棚板保持部品の間に、ガラス棚板が入っていることを確認してから差し込んでください。
- ガラス棚板の滑り止めシートがガラス棚板保持部品で隠れるように設置してください。

3 下からガラス棚板用ねじを締める

- ガラス棚板用ねじをしっかり締めて、ガラス棚板が動かないように固定してください。
- ガラス棚板用ねじを締めるとき、ガラス棚板を持ち上げるようにするとねじが締めやすくなります。

棚板に収納できる機器について

単位 (mm)

SC-HTX7/SC-HTX5					SC-HTX7	SC-HTX5
設置位置	棚板位置	収納部高さ	製品設置可能奥行き	製品設置推奨幅	収納部幅	
上段 Ⓐ	上	117	（上から見た図）後 前 340 ※ SC-HTX7 の下段のみ 370 mm になります。	430	800	610
	下	144				
下段 Ⓑ	上	147				
	下	114				

◯◯お知らせ◯◯

- 棚板上（上段 Ⓐ）と底板上（下段 Ⓑ）には 12 kg を超える機器を設置しないでください。
- 録画機器を上段 Ⓐ に載せると、映像に障害が出る場合があります。その場合は、底板（下段 Ⓑ）に設置してください。
- 後面に放熱孔のある機器は、後面中央部の配線処理部で放熱孔をふさがないように設置してください。

テレビの設置（テレビの取扱説明書もご覧ください。）

推奨画面サイズ　SC-HTX7：50V 型以下
SC-HTX5：42V 型以下

据置きスタンドをラック天板の中央に設置する

◯◯お知らせ◯◯

- 天板には 80 kg を超える機器を設置しないでください。
- 据置きスタンドは、別売の場合があります。
- テレビは持ち上げて移動してください。引きずるとラックの天板を傷つけることがあります。
（持ち方については、テレビの取扱説明書をご覧ください。）
- 回転機能付きの据置きスタンドを回転してご使用になる場合には、テレビが壁に当たらないように壁から離して設置してください。
- 本システムは防磁設計ではありません。ブラウン管テレビを設置しないでください。

ラックの設置と取り付け（つづき）

転倒防止について

テレビが転倒しないように、テレビを固定する

■ラックへの固定

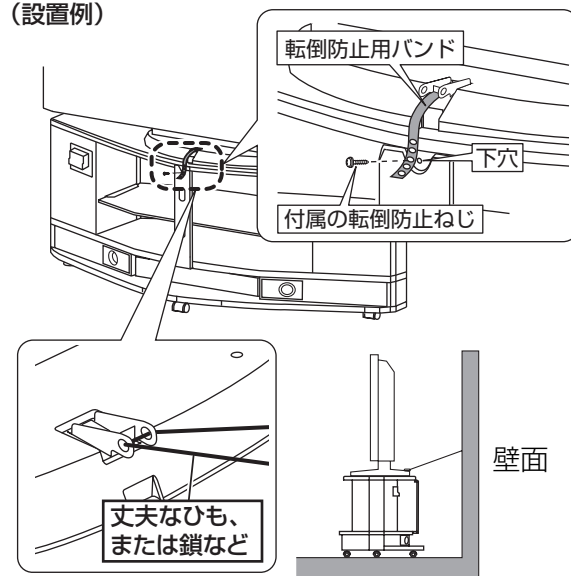
- 必ず付属の転倒防止ねじで、テレビに付属の転倒防止用バンドなどを右図のように取り付けてください。（転倒防止用バンドがテレビに付属していない場合には、市販のバンドで固定してください。）
  転倒防止用バンドは、ラック後面の下穴に取り付けてください。

◯◯お知らせ◯◯
- 強く締めすぎると、空回りして固定できなくなります。
- 転倒防止ねじは必ず本システムに付属されているものをご使用ください。

- テレビに付属の転倒防止用バンドをテレビに取り付ける際は、テレビの取扱説明書に従ってください。

■壁面への固定

- 壁や柱の材質に適した市販のねじ、丈夫なひも、または鎖などを使用して堅牢部にしっかりと取り付けてください。
- 壁や柱にはテレビの重量を支えられる強度が必要です。詳しくは、施工者の方などにご相談ください。

（設置例）

イラストはイメージです。
実際の商品と形状が異なる場合があります。

配線処理カバーの取り付け

1 各機器を接続したケーブルをまとめる

- 本システムに収納した各機器の接続については、「接続する」（➜ 9 ～ 11 ページ）を参照してください。
- 棚板に置いた機器のケーブルは配線処理穴から外に出してください。

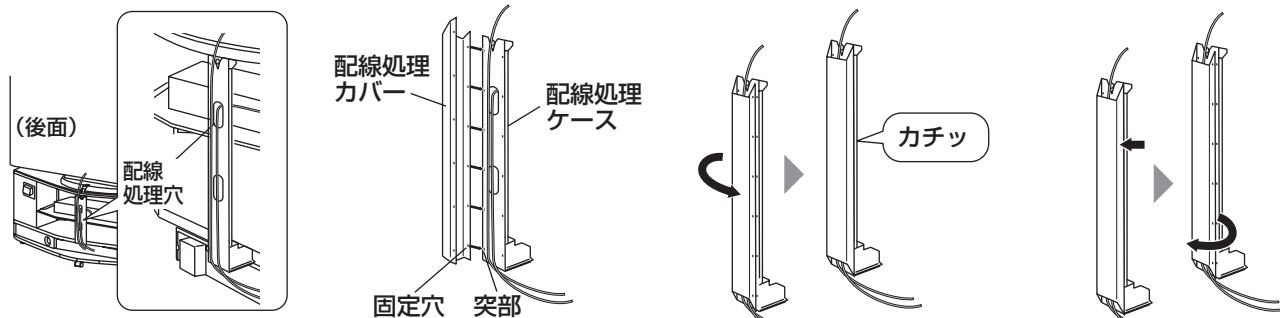
2 配線処理カバーの端を配線処理ケースに合わせる

- 配線処理カバーの固定穴とケースの突部の位置を合わせてください。
- 配線処理カバーには、上下の区別はありません。

3 もう一方の端も合わせて、カチッと音がするまで押してはめ込む

- 配線処理カバーの位置がずれている場合は、上下に動かして位置を合わせてください。

■外す場合

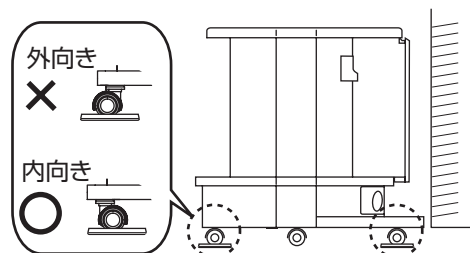
- 配線処理カバーの端を押さえながら外してください。

キャスター座を敷く

本システムが動かないように、すべてのキャスター（4 個）の下にキャスター座を敷いて、固定する

- キャスター座を敷くときは、下図のようにキャスターカバーとキャスター座の矢印を合わせてください。

- キャスター座を敷くときは、必ず 2 人以上で行ってください。
  また、指をはさまないようにご注意ください。
- キャスター座を取り外すときは、ラックを持ち上げてください。
  ラックの持ち上げ方については、6 ページをご覧ください。

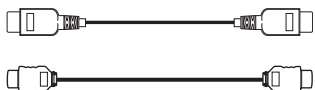
（キャスターの向き）

キャスター座がはみ出さないように、前後のキャスターを内向きに設置してください。

接続する

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

HDMI 端子のある機器（テレビ、レコーダーなど）を接続する

使用するケーブル

HDMI ケーブル（付属または別売 ➔ 3 ページ）	光デジタルケーブル（付属）

※付属の HDMI ケーブルと光デジタルケーブルは、テレビとの接続にご使用ください。

テレビ

HDMI 入力

デジタル音声出力（光）

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

アンプ部

光 1 テレビ デジタル 入力　光 2 外部 入力2

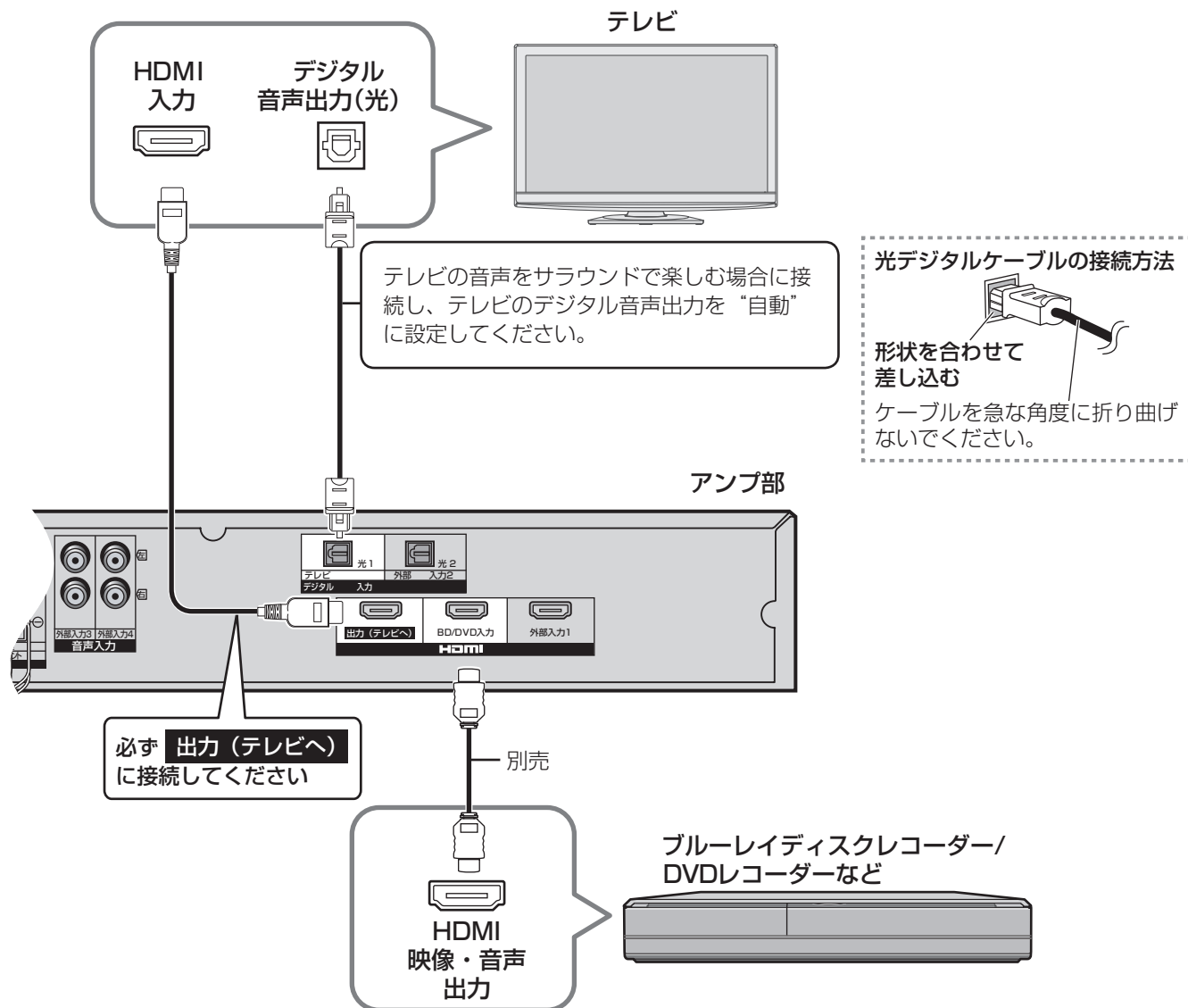
外部入力3 外部入力4 音声入力

出力（テレビへ）　BD/DVD入力　外部入力1　HDMI

必ず 出力（テレビへ） に接続してください

別売

ブルーレイディスクレコーダー/DVDレコーダーなど

HDMI 映像・音声出力

■ 付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合

- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。
- HDMI ロゴ（➔ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。

■ テレビのスピーカーだけで楽しむ

- テレビとレコーダーなどの映像機器を本システムの BD/DVD 入力端子や外部入力 1 端子（➔ 11 ページ）に接続している場合、本システムの電源ボタンで電源を切っても、レコーダーなどの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送されます。**（スタンバイスルー機能）**テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。
- x.v.Color や Deep Color（➔ 26 ページ）で記録された映像にも対応しています。

お知らせ

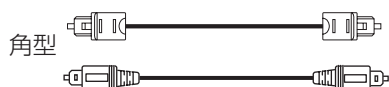
電源を切る前に入力を HDMI 入力（“***BD/DVD***” または “***AUX 1***”）以外に設定していても、本システムの電源ボタンで電源を切ると、HDMI 入力に接続している機器の映像 / 音声信号がテレビから出力されます。（再度、本システムの電源を入れると、設定していた入力に戻ります。）

BD/DVD 入力端子と外部入力 1 端子の両方に機器を接続している場合は、最後に入力を選択した方の機器の映像 / 音声信号が出力されます。

接続する（つづき）

HDMI 端子がない機器（DVD プレーヤー、ビデオデッキなど）を接続する

使用するケーブル

光デジタルケーブル（付属または別売 ➜ 3 ページ）	ステレオピンコード（別売 ➜ 3 ページ）
角型	

※付属の光デジタルケーブルは、テレビとの接続にご使用ください。
※映像コードに関しては、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ

デジタル
音声出力(光)

映像機器の映像出力とテレビの映像入力を直接接続してください。

映像入力

この接続をすると、本システムの電源を切っても、接続した各機器の音声信号がテレビから出力されます。

音声入力

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

テレビの音声をサラウンドで楽しむ場合に接続し、テレビのデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

映像
コード

音声
コード

アンプ部

光1 光2
テレビ デジタル 入力 外部 入力2
外部入力3 外部入力4 音声入力
出力（テレビ） BD/DVD入力 外部入力1
HDMI

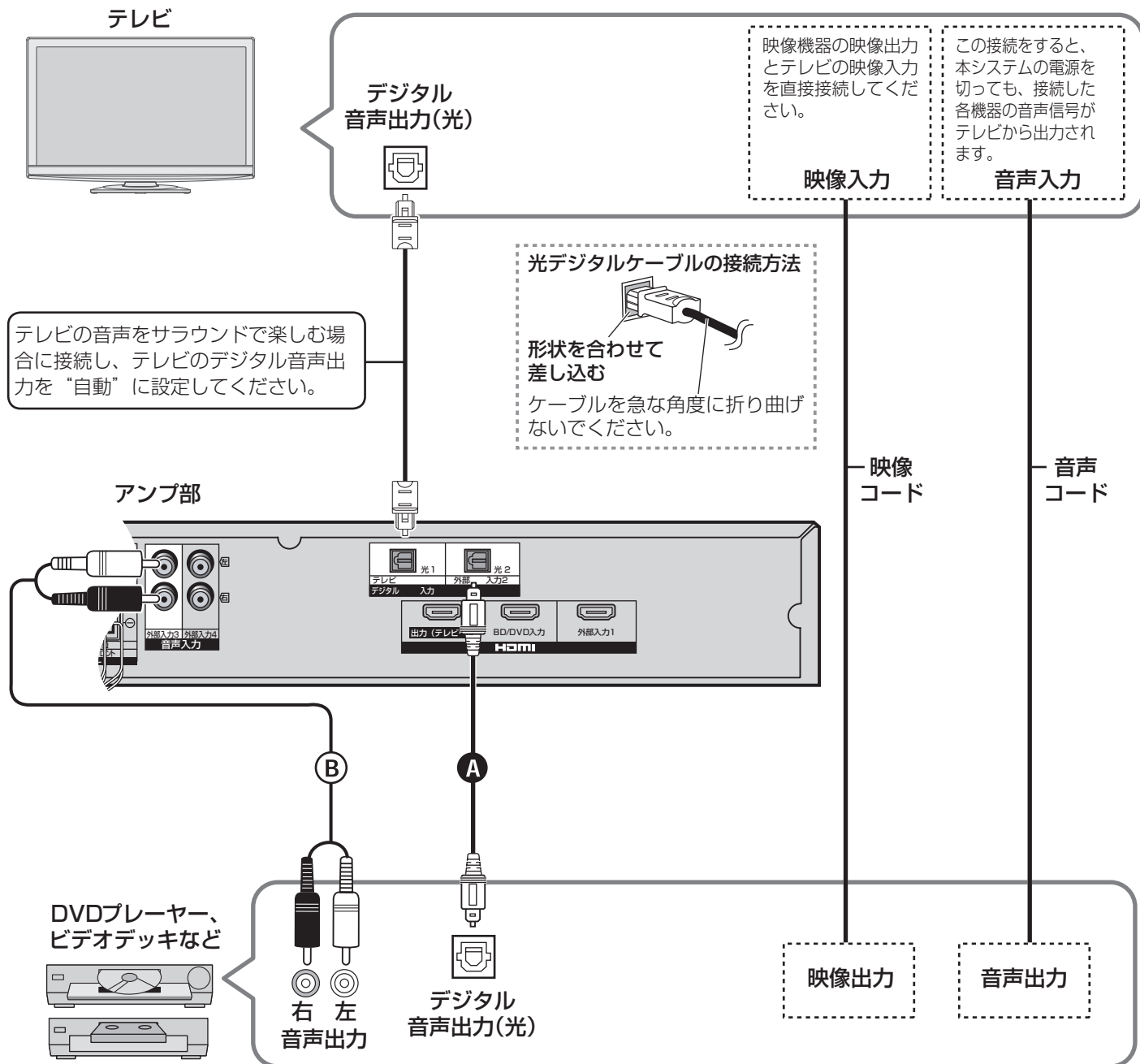
Ⓑ Ⓐ

DVDプレーヤー、
ビデオデッキなど

右 左
音声出力

デジタル
音声出力(光)

映像出力

音声出力

お持ちの機器やお好みに合わせて、Ⓐ または Ⓑ の接続をしてください。

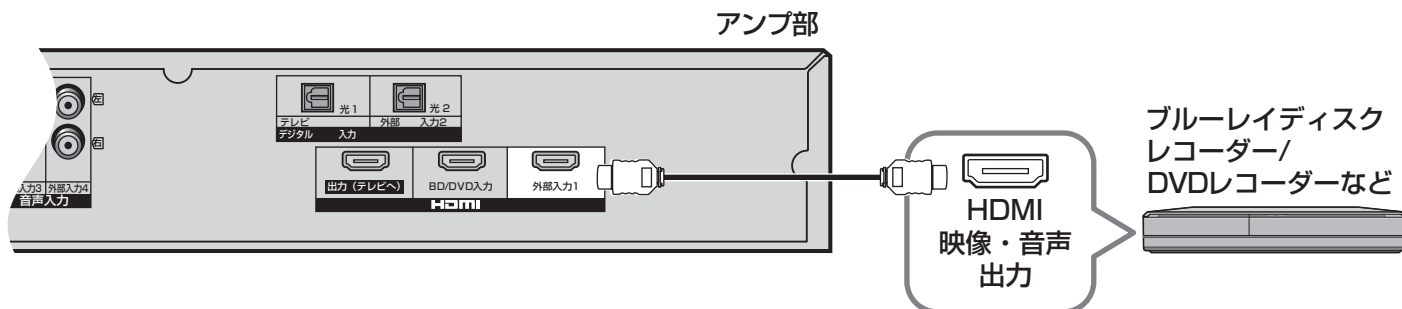
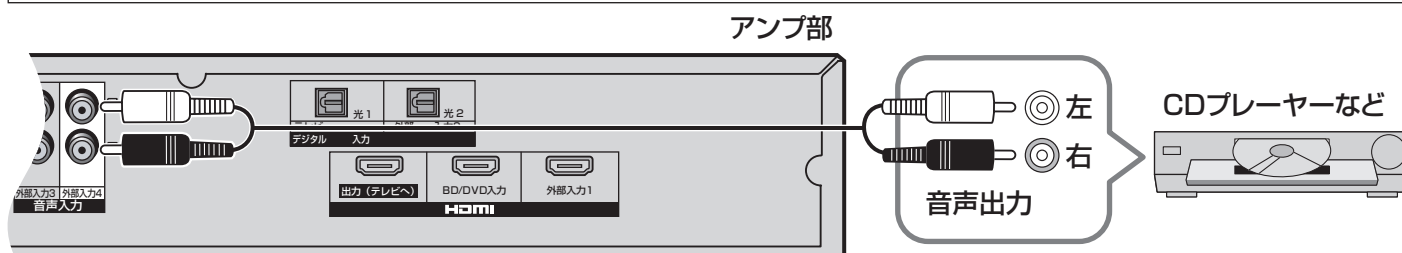
☞ **ビデオデッキ一体型 DVD レコーダーを接続する場合**
（DVD 専用出力端子と DVD/VHS 共用出力端子がある場合の接続です。）
DVD 専用出力端子側は上記 Ⓐ の接続をしてください。
DVD/VHS 共用出力端子側は上記 Ⓑ の接続をしてください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

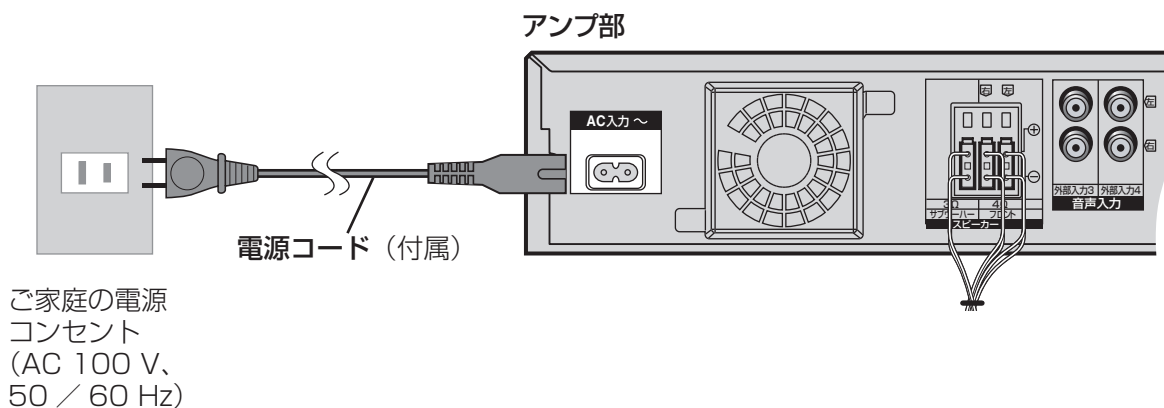
その他の接続

使用するケーブル

2 台目の HDMI 対応機器を接続する

※本システムとテレビとの接続に関しては、9 ページをご覧ください。

オーディオ機器（CD プレーヤーなど）を接続する

電源コードの接続

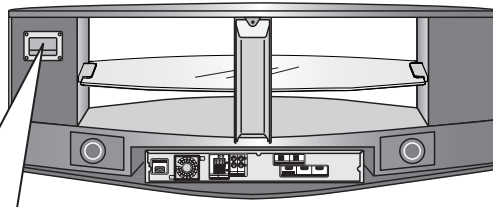
電源コードは必ず最後に接続してください。

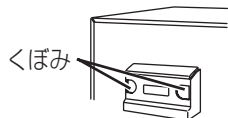
電源プラグをコンセントに接続した状態で 約 0.4 W（省待機電力モード時（➜ 19 ページ）は約 0.1 W）の電力を消費しています。長期間使用しないときは節電のため抜いておくことをおすすめします。
電源プラグを抜くときは、必ず本システムの電源を切ってから抜いてください。

ご家庭の電源
コンセント
（AC 100 V、
50 ／ 60 Hz）

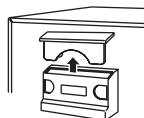
ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続する

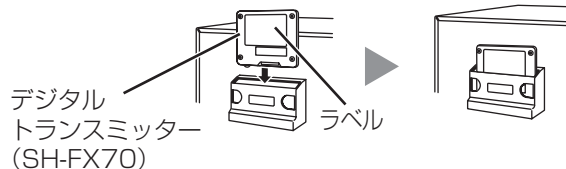
サラウンドスピーカーは別売です。

本システムでは、当社製 SH-FX70（デジタルトランスミッターとワイヤレスシステムのセット：別売）を使用して、左右サラウンドスピーカーをワイヤレスで接続することができます。
本システムのデジタルトランスミッター端子にデジタルトランスミッターを差し込み、サラウンドスピーカーを SH-FX70 ワイヤレスシステムに接続します。詳しくは、SH-FX70 の取扱説明書をご覧ください。
ワイヤレスサラウンドスピーカーを接続している場合の音場効果については、15 ページをご覧ください。

- **接続するときは、本システムの電源を切ってください。**
- 接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。

デジタルトランスミッターの挿入のしかた

① 左右のくぼみを強く押す

・ふたが飛び出ることがあるので注意してください。

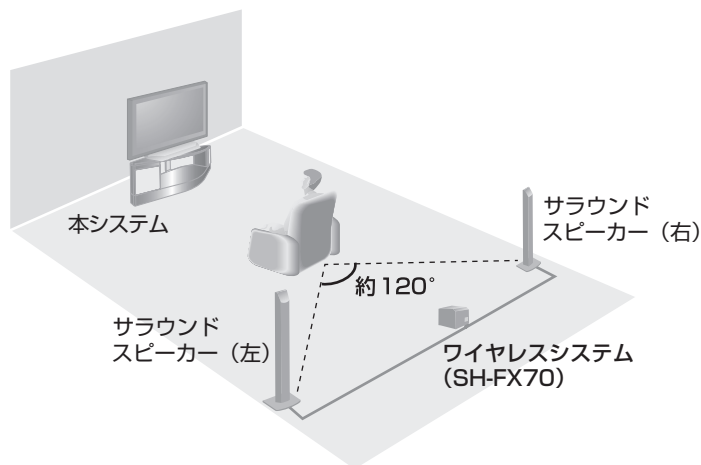
② ふたをはずす

・はずしたふたは保管しておいてください。

③ ラベル面（ねじが 4 つある面）が手前になるように奥まで挿入する

サラウンドスピーカーの配置

☞ サラウンドスピーカーを設置するには、SH-FX70 が必要です。

サラウンドスピーカー（左、右）：視聴位置のやや後方の左右に設置してください。

設置例

スピーカーシステム SB-HS500A（別売）を接続した場合

■ **SH-FX70（別売）とは、デジタルトランスミッターとワイヤレスシステム本体です。**

お知らせ

左右サラウンドスピーカーは別売です。

お知らせ

各スピーカーから視聴位置までの距離を設定してください。（➜ 19 ページ）
それにより、視聴位置に届く音の遅延時間を補正することができます。

デジタルトランスミッターの挿入後、電源を「入」にすると（➜ 14 ページ）、デジタルトランスミッターが検出され、表示部に "W" が点灯します。
（検出動作中は点滅し、検出されると点灯になります。）

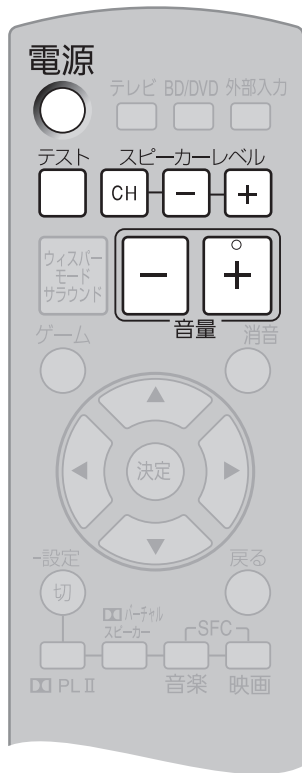
表示部: W

デジタルトランスミッターを挿入している間は "W" が点灯していますが、下記のような場合は、消灯または点滅します。

消灯：再生モードがステレオ（2 チャンネル）の場合や、地上波デジタル放送などの音声多重放送を受信したときなど、ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用したサラウンド再生ができないとき

点滅：電波が途切れているとき (SH-FX70 の電源が切れているとき)

スピーカーの音を確認・調整する

本リモコンを本システム操作部の受信部（➜ 5 ページ）に向けてください。

テスト信号で音声の出力を確認する

電源

1. ◯ **押して、本システムの電源を入れる**

テスト

2. □ **押して、音声出力を確認する**

スピーカー表示
L：フロント左、***R***：フロント右、***SUBW***：サブウーハー、
RS：ワイヤレスサラウンド右、***LS***：ワイヤレスサラウンド左

- 約 2 秒間隔で下記の順に表示され、テスト信号が出力されます。

TEST L → ***TEST R*** → ***TEST SUBW***（→ ***TEST L*** に戻る）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合（➜ 12 ページ）

- 約 2 秒間隔で下記の順にテスト信号が出力されます。

TEST L → ***TEST R*** → ***TEST RS*** → ***TEST LS*** → ***TEST SUBW***（→ ***TEST L*** に戻る）

3. [－][＋] 音量 **押して、フロントスピーカーを通常聞く音量にする**

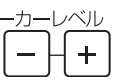
調整範囲：
0（最小）～ ***50***（最大）

テスト

4. □ **押して、テスト信号を止める**

◯◯お知らせ◯◯

スピーカーからテスト信号が出力されない場合は、コネクターの接続を確認してください。（➜ 4 ページ）

スピーカー（サブウーハー、ワイヤレスサラウンドスピーカー）の音量を調整する

サブウーハー、ワイヤレスサラウンドスピーカー（接続時のみ➜ 12 ページ）の音量がフロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じた場合、スピーカーの音量調整をします。

1. テスト信号を出力する（➜ 上記　手順 1 ～ 3）

2. [CH] **押して、調整したいスピーカーを選ぶ**

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用していない場合
SUBW（サブウーハー）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合（➜ 12 ページ）
SUBW（サブウーハー）→ ***RS***（ワイヤレスサラウンド右）→ ***LS***（ワイヤレスサラウンド左）（→ ***SUBW*** に戻る）

スピーカーレベル

3. [－][＋] **押して、**

各スピーカーの音量を調整する

調整範囲：

SUBW:	***OFF***、***MIN***、***1*** ～ ***19***、***MAX***
RS, LS:	***－ 10*** ～ ***＋ 10***

- 調整しているスピーカーからのみテスト信号が出力されます。
- 操作後、約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

■ **手順 2 と 3 を繰り返し、各スピーカーを調整する**

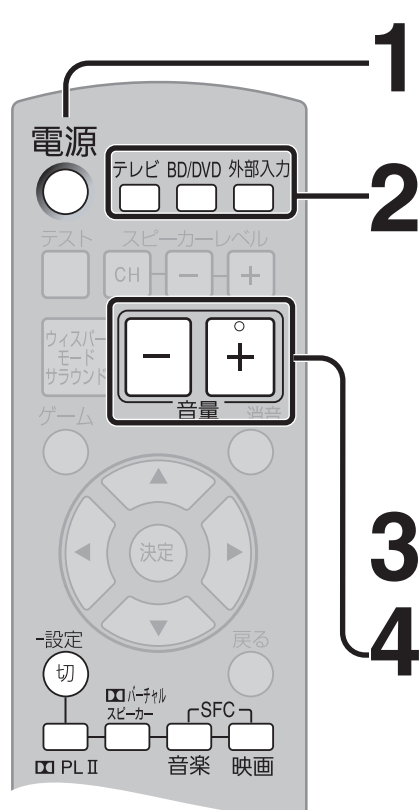
テスト

4. □ **押して、テスト信号を止める**

◯◯お知らせ◯◯

- フロントスピーカーは、この操作では調整できません。左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「フロントスピーカーの音量バランスを調整する」（➜ 19 ページ）を参照してください。
- サブウーハーの調整で ***“OFF”*** を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
- この調整で各チャンネルのレベルを調整しても、SFC（➜ 15 ページ）の各モードの各チャンネルのレベル設定は変化しません。
- この調整をすると、ドルビーバーチャルスピーカーが働きます。2チャンネル信号を再生している場合は、連動してドルビープロロジックⅡも働きます。（➜ 15ページ）
- 映画や音楽を再生しながらスピーカーレベルを調整することもできます。（➜ 18 ページ）

映画や音楽を楽しむ

準備 テレビの電源を入れ、テレビのリモコンで本システムを接続した入力（[HDMI] など）に切り換える。

1 電源

本システムの電源を入れる

押す

2 テレビ または BD/DVD または 外部入力

接続している機器の入力を選ぶ

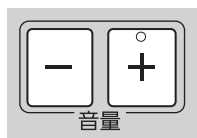
押す

TV　：テレビ
BD/DVD　：ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー
AUX 1　：外部入力 1 端子に接続した機器
AUX 2　：外部入力 2 端子に接続した機器
AUX 3　：外部入力 3 端子に接続した機器
AUX 4　：外部入力 4 端子に接続した機器

■ “*AUX 1*”、“*AUX 2*”、“*AUX 3*”、“*AUX 4*”は [外部入力] を押すごとに切り換わります。

3 接続している機器を再生する

■ いろいろなサラウンド効果を楽しむことができます。（➜ 右ページ）

4 音量 − ＋

音量を調整する

押す

調整範囲：***0***（最小）～ ***50***（最大）

■ 再生を楽しんだ後は、音量を下げてから [電源] を押して電源を切ってください。

◯◯**お知らせ**◯◯

- 本システムで再生できるデジタル信号については 23 ページをご覧ください。
- 再生する信号によっては、サブウーハーやサラウンドスピーカー（使用している場合➜ 12 ページ）の音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもスピーカーの音量調整ができます。（➜ 18 ページ）
- “***BD/DVD***”“***AUX 1***”以外に入力を切り換えても、BD/DVD 入力端子や外部入力 1 端子に接続した機器の映像（または音声）は、テレビ出力端子から出力されます。
- **ビデオデッキ一体型 DVD レコーダー（DVD 専用出力端子と DVD/VHS 共用出力端子がある場合）は、上記手順 2 で入力を以下のように選んでください。**
  DVD を楽しむとき（外部入力 2 端子につないでいるとき）：“***AUX 2***”に合わせる
  ビデオを楽しむとき（外部入力 3 端子につないでいるとき）：“***AUX 3***”に合わせる

いろいろな音場効果を楽しむ

音場効果は入力信号によって異なります。実際の音をお聞きのうえ、お好みのモードを選んでください。

■ドルビーバーチャルスピーカー

5．1チャンネルで聞いているようなサラウンド効果が楽しめます。（ビデオやCDなどのステレオ信号には同時にドルビープロロジックⅡが働きます。）

ドルビーバーチャルスピーカーを使う

[DD バーチャルスピーカー] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 下記）

***REFERENCE* (標準モード)**	標準的な効果が得られるモードです。
***WIDE* (ワイドモード)**	左右の音場を更に広くするモードです。

■ SFC (Sound Field Control)

ドルビーデジタル、DTS、AAC、ステレオ信号（ビデオやCDなど）に臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

SFC (Sound Field Control) を使う

ドルビーバーチャルスピーカー（➜ 上記）の効果に、さらにお好みのサラウンド効果を加えて楽しめます。

SFC [音楽] [映画] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 下記）

☞ **SFCの効果を解除する**

[DD バーチャルスピーカー] を押す

音楽	
***LIVE*（ライブ）**	大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。
***POP/ROCK*（ポップ / ロック）**	ポピュラーやロック音楽に適した効果。
***VOCAL*（ボーカル）**	ボーカルの声を際立たせる効果。
***JAZZ*（ジャズ）**	ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。
***DANCE*（ダンス）**	ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。
映画	
***NEWS*（ニュース）**	セリフがメインになるようなニュースやドラマに適した効果。
***ACTION*（アクション）**	迫力のあるアクション映画に適した効果。
***STADIUM*（スタジアム）**	スポーツ観戦しているような臨場感。
***MUSICAL*（ミュージカル）**	ミュージカル劇場にいるような臨場感。
***GAME*（ゲーム）**	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。
***MONO*（モノラル）**	昔のモノラル音声の映画などに適した効果。

音場効果を切る

[–設定 切] 押す

● CDやテレビなどの2チャンネル信号はサラウンド効果がない状態になります。
● 入力信号がドルビーデジタルやDTSなどのサラウンドデジタル信号やマルチチャンネルLPCM信号のときは、信号を2.1チャンネルに集約し､左右フロントスピーカーとサブウーハーから出力します。ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続しているときは、サラウンド再生（4.1チャンネル）（➜ 下記）になります。

ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続している場合

■サラウンド再生

多チャンネル信号を左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカー、サブウーハーに分配して出力します。特に、7.1チャンネルLPCM信号を再生すると、さらにスピーカーを追加したようなより広がりのある音場効果が楽しめます。

■SFC (Sound Field Control)（ ➜ 左記）

SFC (Sound Field Control) を使う

SFC [音楽] [映画] 押す

● 押すたびにモードが切り換わります。（➜ 左記）

☞ **SFCの効果を解除する**

［–設定、切］を押す

■ドルビープロロジックⅡ

CDなどの2チャンネル信号をサラウンドで楽しむことができます。

ドルビープロロジックⅡを使う

[DD PLⅡ] 押す

☞ **音場効果を切る場合**

［–設定、切］を押す（➜ 上記）

お知らせ

● サラウンドデジタル信号 / 音場効果の表示については、5ページをご覧ください。
● 入力信号が2チャンネルの場合、[DD PLⅡ] を押すと、連動してドルビーバーチャルスピーカーが働きます。（ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用していない場合のみ）
● マルチチャンネルLPCM信号には、SFCは使用できません。
● PCMのサンプリング周波数が48 kHzを超える信号には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFCやドルビープロロジックⅡは使用できません。
入力されると自動的に解除されます。その後、他の信号を再生して効果を使用するには、再び [DD バーチャルスピーカー]、[SFC 音楽 、映画] や [DD PLⅡ] を押して選んでください。
● SFCの“*GAME*”モード（➜ 左記）は､リモコンの [ゲーム] を押すことでも選べます。（ ➜ 18ページ）
● ワイヤレスのサラウンドスピーカー使用時は、ドルビーデジタルやDTSなどのサラウンド信号やマルチチャンネルLPCM信号には、ドルビープロロジックⅡは使用できません。

ビエラリンク（HDMI）を使う

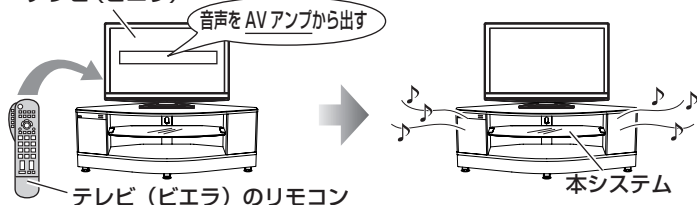
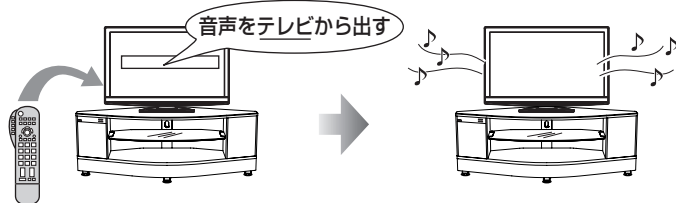
ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）とは

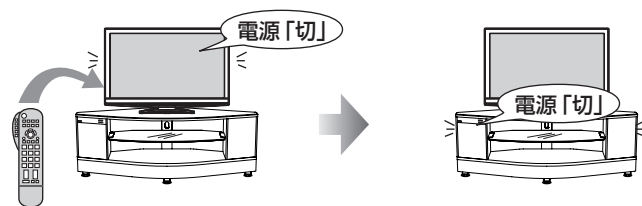
- 本システムと HDMI ケーブル（付属または別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン1つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
  ※すべての操作ができるものではありません。
- ビエラリンク（HDMI）は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製 HDMI CEC 対応機器との動作保証はしておりません。
- ビエラリンク（HDMI）に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本システムはビエラリンク（HDMI）Ver.4 に対応しています。
  ビエラリンク（HDMI）Ver.4 とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した当社基準です。
  （2008 年 12 月現在）

ビエラリンク（HDMI）でできること

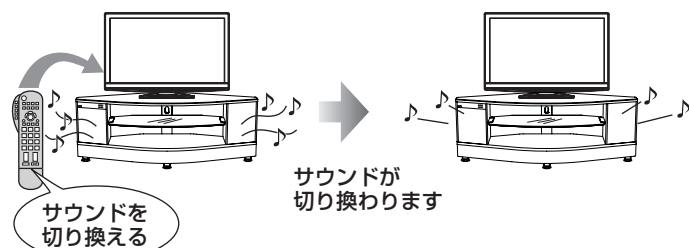
テレビ（ビエラ）のリモコンで操作します。テレビによって、操作は異なります。

- イラストや画面は、イメージであり、実際とは異なる場合があります。
- 17 ページのお知らせもご覧ください。
- 下記以外の操作をする場合は、本システムのリモコンを使用してください。
- テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

1. スピーカー切換ができます（「音声を AV アンプから出す」または「音声をテレビから出す」）。

本システムがスタンバイ状態※のとき、音声が入力されると、自動的に電源が入り、本システムのスピーカーから音声が出力される設定になります。
※スタンバイ状態とは、本システムの電源が「切」になっている状態です。

テレビ（ビエラ）のスピーカーから音声が出力される設定になります。
ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、自動的に本システムの電源も切れます。

2. テレビ（ビエラ）の電源を切ると自動的に本システムの電源も切れます。

ビエラリンク（HDMI）に対応したレコーダー（ディーガ）と HDMI ケーブルで接続している場合は、レコーダー（ディーガ）の電源も切れます。

3. サウンドをお好みで切り換えることができます。

（ビエラリンク（HDMI）Ver.2 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせのみ）

- モード切り換え時、本システムの表示部にサウンドモード名が表示されます。
- 入力信号が 48 kHz を超えるサンプリング周波数の PCM のときは、この機能は使えません。

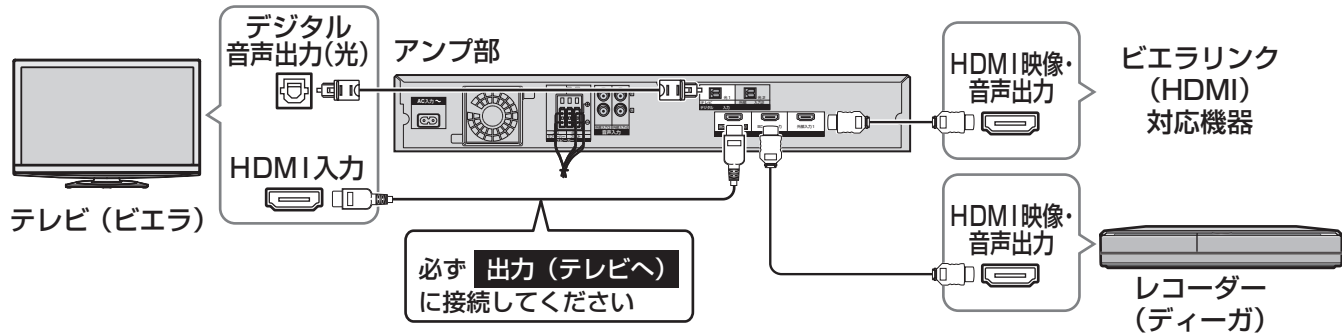
さらに、番組情報などに応じて、自動でサウンドを切り換えることができます（番組ぴったりサウンド（オートサウンド連携））。
（ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）の組み合わせのみ）

- 自動でサウンドを切り換えたくない場合は、テレビのサウンドモードを“オート”以外に設定してください。
- 番組情報などを受け取り、サウンドが変更された場合は、本システムの表示部にサウンドモード名が表示されます。
- すべての番組情報などには対応していません。対応していない場合には、スタンダードモード（ドルビーバーチャルスピーカー再生）になります。

ビエラリンク（HDMI）を正しく動作させるために

本システムの電源ボタン（リモコン含む）で電源を入れずに、テレビ（ビエラ）のリモコンで「音声を AV アンプから出す」を選択してください。（本システムの電源が自動的に入ります。）テレビ（ビエラ）の取扱説明書もご覧ください。

接続

本システムとビエラリンク（HDMI）に対応した当社製テレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）をHDMI ケーブルで接続します。

付属以外の HDMI ケーブルをご使用になる場合
- HDMI ロゴ（➜ 表紙）のある「High Speed HDMI™ ケーブル」をお買い求めください。
- 1080p 出力時は、5.0 m 以下の HDMI ケーブルをおすすめします。
- 当社製 HDMI ケーブルを推奨します。（HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。）
  品番 : RP-CDHG10 (1.0 m)、RP-CDHG15 (1.5 m)、RP-CDHG20 (2.0 m)、RP-CDHG30 (3.0 m) など

お知らせ
- HDMI ケーブルの接続だけでは、本システムでテレビ（ビエラ）の音声を楽しむことができません。本システムでテレビ（ビエラ）の音声を楽しむ場合は、本システムとテレビ（ビエラ）を光デジタルケーブルで接続してください。
- 各接続機器のビエラリンク（HDMI）操作については、テレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。

設定

準備：本システムの「ビエラリンク（HDMI）設定」（➜ 20 ページ）で“*ON*”になっているかを確認してください。
テレビ（ビエラ）のメニュー操作でビエラリンク（HDMI）機能を働かせる設定にしてください。
テレビ（ビエラ）の音声をサラウンドで楽しむときは、テレビ（ビエラ）のデジタル音声出力を“自動”に設定してください。

1. **テレビ（ビエラ）以外のすべての機器の電源を入れる。**
2. **テレビ（ビエラ）の電源を入れる。**
3. **テレビ（ビエラ）の入力を、本システムを接続した HDMI 端子に切り換える。**
4. **本システムの入力を“*BD/DVD*”や“*AUX 1*”に切り換えて、レコーダー（ディーガ）などの画像が正しく映るかを確認する。**

お知らせ

この設定は以下のような場合に、行ってください。
- お買い上げの直後、初めて本システムを接続したとき
- 機器を追加、または接続し直したとき
- 各設定を変更したとき

この機能を使わない設定にする

「ビエラリンク（HDMI）設定」（➜ 20 ページ）で“*OFF*”を選んでください。

お知らせ
- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降の当社製テレビ（ビエラ）との組み合わせの場合は、本システムの電源を「入」にすると、テレビ（ビエラ）が「音声を AV アンプから出す」設定になります。
  また、本システムの電源を「切」にするとテレビ（ビエラ）が「音声をテレビから出す」設定になります。（➜ 16 ページ）
- 番組ぴったりサウンド（➜ 16 ページ）は、以下のような場合に働きます。
  - ●テレビ（ビエラ）で：デジタル放送の番組を視聴中
  - ●レコーダー（ディーガ）で：
    デジタル放送の番組を視聴中、または再生中
    DVD、CD、SD などを再生中
    - 録画したディスクによっては、対応していない場合があります。
    - 自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。
    - 詳しくは、レコーダー（ディーガ）の取扱説明書をご覧ください。
- テレビ（ビエラ）のリモコンで、チャンネル選択などの操作を行うと、本システムの入力が“*TV*”に切り換わります。
- BD/DVD 入力端子や外部入力 1 端子に接続したレコーダー（ディーガ）などを再生すると、本システムの入力が自動で“*BD/DVD*”や“*AUX 1*”に切り換わります。

便利な機能・設定

ウィスパーモードサラウンドを使用する

サラウンド再生時のみ効果がある機能です。サラウンド再生時に、小音量にしても臨場感のある効果が楽しめます。

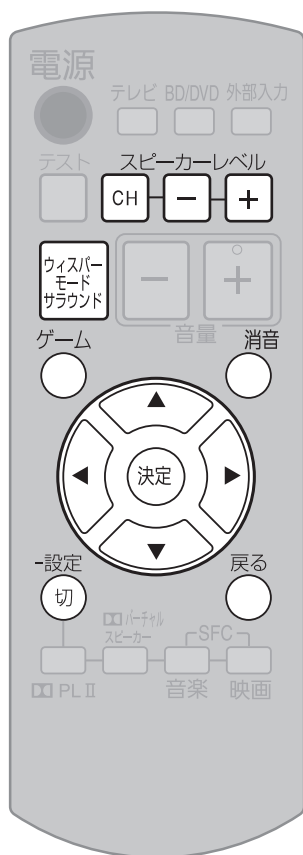
[ウィスパーモードサラウンド] を押す

“*W.S.ON*”と表示されます。

■ **解除する**　もう一度押す

解除すると、“*W.S.OFF*”と表示されます。

本体でも設定できます

● この機能が「入」のときは、操作部の [ウィスパーモードサラウンド] ランプが点灯します。

設定動作中（➜ 19 ページ）にひとつ前に戻る／キャンセルする：[戻る] を押す

お知らせ

ウィスパーモードサラウンドは、下記の場合には効果がありません。

　ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用していない場合：

　　ドルビーバーチャルスピーカーが「切」のとき

　ワイヤレスのサラウンドスピーカーを使用している場合：

　　2 チャンネル信号入力でドルビープロロジックⅡ、SFC が「切」のとき

この機能が「入」の場合に上記の設定にしたときは、[ウィスパーモードサラウンド] ランプが消灯して、一時的に機能が「切」の状態になります。

ゲームサウンドを使用する

迫力のあるサウンドでゲームが楽しめます。

[ゲーム] を押す

● SFC の“*GAME*”モード（➜ 15 ページ）が選択されます。

■ **解除する**　もう一度押す

解除すると、SFC の効果自体も解除されます。

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に“*MUTING IS ON*”とくり返し表示（スクロール）されます。

[消音] を押す

■ **解除する**　もう一度押す

お知らせ

- 電源を切ると解除されます。
- 音量を調整すると解除されます。

再生中にスピーカー（サブウーハー、ワイヤレスサラウンドスピーカー）の音量をお好みに応じて調整する

再生する信号によっては、サブウーハーやサラウンドスピーカー（使用している場合 ➜ 12 ページ）の音量が、フロントスピーカーの音量とバランスが合わないと感じることがあります。そのような場合は、再生中でもスピーカーの音量調整ができます。

1. [CH] を押して、調整するスピーカーを選ぶ

（スピーカーは、押すごとに切り換わります。）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用していない場合：***SUBW***（サブウーハー）

☞ ワイヤレスサラウンドスピーカーを使用している場合（➜ 12 ページ）：

SUBW（サブウーハー）→ ***RS***（ワイヤレスサラウンド右）→ ***LS***（ワイヤレスサラウンド左）

2. [スピーカーレベル +、−] を押して、各スピーカーの音量を調整する

調整範囲：***SUBW:***　***OFF***、***MIN***、***1*** 〜 ***19***、***MAX***

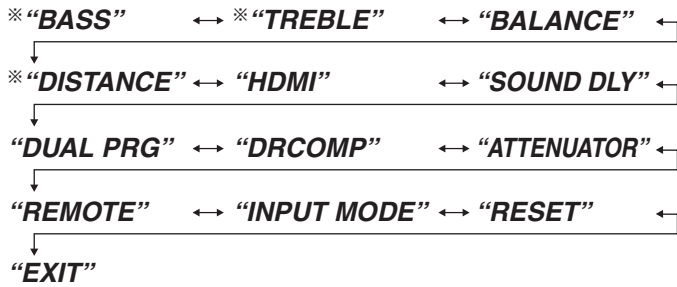
　　　　　RS, LS:　− ***10*** 〜 + ***10***

■ **手順 1 と 2 を繰り返し、各スピーカーを調整する**

お知らせ

- フロントスピーカーは、この操作では調整できません。左右フロントスピーカーの音量バランス調整は、「フロントスピーカーの音量バランスを調整する」（➜ 右ページ）をご覧ください。
- サブウーハーの調整で“*OFF*”を選ぶと、サブウーハーから音が出ません。
- 音がひずむ場合は、レベルを下げてください。
- 音場効果を切って音声が出力されない設定にしたスピーカー（➜ 15 ページ）では、レベル調整はできません。
- SFC（➜ 15 ページ）は各モードごとにスピーカーの音量調整ができます。

■ 設定項目

※*"BASS"* ↔ ※*"TREBLE"* ↔ *"BALANCE"*
↓
※*"DISTANCE"* ↔ *"HDMI"* ↔ *"SOUND DLY"*
↓
"DUAL PRG" ↔ *"DRCOMP"* ↔ *"ATTENUATOR"*
↓
"REMOTE" ↔ *"INPUT MODE"* ↔ *"RESET"*
↓
"EXIT"

※は調整が有効な場合のみ表示されます。

音質の調整をする

BASS（低音）と TREBLE（高音）を調整できます。
アナログ、PCM の 2 チャンネル信号をステレオ再生するときのみ有効です。
それ以外の条件では、この設定は表示されません。必ず、上記の条件にしてから、設定してください。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 上記）
2. [◀] [▶] を押して "*BASS*" または "*TREBLE*" を選び、[決定] を押す
   - "*EXIT*" を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3. [▲] [▼] を押して調整し、[決定] を押す
   調整範囲 : ***–6*** ～ ***+6***
   初期設定 : ***0***
4. [戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終える

フロントスピーカーの音量バランスを調整する

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 上記）
2. [◀] [▶] を押して "*BALANCE*" を選び、[決定] を押す
   - "*EXIT*" を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3. [◀] [▶] を押して調整し、[決定] を押す
   L : フロントスピーカー（左）
   R : フロントスピーカー（右）
   表示部のバーを左右に動かすことで調整できます。
   - "*L*" に近づくにつれて、左フロントに音が寄ります。
   - "*R*" に近づくにつれて、右フロントに音が寄ります。
4. [戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終える

◯◯お知らせ◯◯
バーの表示は目安です。

距離の設定をする

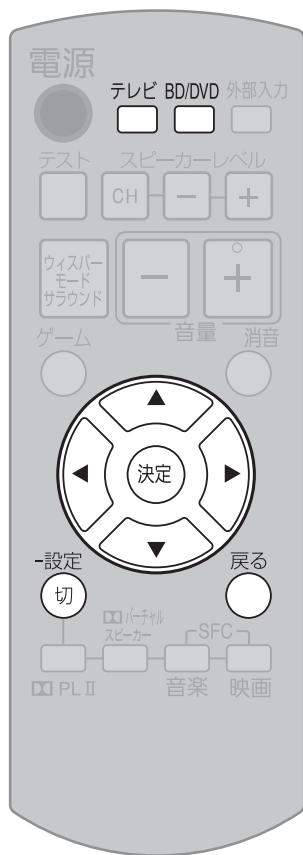
SH-FX70 で、ワイヤレスのサラウンドスピーカーを接続している場合に設定できます。（➜ 12 ページ）それ以外の場合は、この設定は表示されません。
フロント / サラウンドスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 左記）
2. [◀] [▶] を押して "*DISTANCE*" を選び、[決定] を押す
   - "*EXIT*" を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3. [◀] [▶] を押して設定するスピーカーを選び、[決定] を押す
   FRONT : フロントスピーカー
   SURR : サラウンドスピーカー
4. [▲] [▼] を押して距離を選び、[決定] を押す
   設定値 : ***1.0*** ～ ***10.0*** m
   初期設定 : フロント ***3.0*** m
   サラウンド ***1.5*** m
5. [戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終える

本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）

このモードでは HDMI 接続をしている場合、スタンバイスルー機能（➜ 9、26 ページ）は働きません。
電源「切」時のビエラリンク（HDMI）（➜ 16、17 ページ）は無効になります。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 左記）
2. [◀] [▶] を押して "*HDMI*" を選び、[決定] を押す
   - "*EXIT*" を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3. [◀] [▶] を押して "*STNBY*" を選び、[決定] を押す
4. [▲] [▼] を押して "*OFF*" を選び、[決定] を押す
   OFF : 電源「切」時の消費電力を下げる（約 0.1 W）
   ON : 電源「切」時に「スタンバイスルー」を有効にする（通常の消費電力）
   初期設定 : ***ON***
5. [戻る] を数回押して "*EXIT*" を選び、[決定] を押して設定を終える

便利な機能・設定（つづき）

設定動作中に
ひとつ前に戻る／キャンセルする：
［戻る］を押す

ビエラリンク（HDMI）設定

1.［ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2.［◀］［▶］を押して“*HDMI*”を選び、［決定］を押す
   ● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3.［◀］［▶］を押して“*CTRL*”を選び、［決定］を押す
4.［▲］［▼］を押して“*ON*”または“*OFF*”を選び、［決定］を押す
   ON：連動するとき　***OFF***：連動しないとき　初期設定：***ON***
5.［戻る］を数回押して“*EXIT*”を選び、［決定］を押して設定を終える

音声を遅らせて映像とのズレを補正する

映像が音声よりも遅れている場合に、音声を遅らせて、映像に近づけます。

1.［ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2.［◀］［▶］を押して“*SOUND DLY*”を選び、［決定］を押す
   ● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3.［▲］［▼］を押して設定を選び、［決定］を押す
   AUTO、***OFF***、***10***、***20***、***30***、***40***　初期設定：***AUTO***
4.［戻る］を数回押して“*EXIT*”を選び、［決定］を押して設定を終える

お知らせ

- 音声を遅らせる必要がない場合は、“*OFF*”を選んでください。
- “*AUTO*”はビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）を接続している場合のみ有効です。（オートリップシンク）
- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応していない当社製テレビ（ビエラ）、もしくは当社製以外のテレビを接続している場合で“*AUTO*”にしているときは、“*40*”(msec) として設定されます。

二重音声を切り換える

AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声を切り換えることができます。

1.［ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2.［◀］［▶］を押して“*DUAL PRG*”を選び、［決定］を押す
   ● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3.［▲］［▼］を押して音声を選び、［決定］を押す
   MAIN：主音声　***SUB***：副音声　***M+S***：主＋副音声　初期設定：***MAIN***
4.［戻る］を数回押して“*EXIT*”を選び、［決定］を押して設定を終える

小音量でも聞きやすくする

ドルビーデジタルに対するダイナミックレンジ圧縮機能です。
音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすくします。
深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

1.［ー設定、切］を約 2 秒間押したままにする
   設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）
2.［◀］［▶］を押して“*DRCOMP*”を選び、［決定］を押す
   ● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。
3.［▲］［▼］を押して設定を選び、［決定］を押す
   OFF：通常の再生　***STANDARD***：音源に合わせた最適な再生
   MAX：常に最大圧縮　初期設定：***OFF***
4.［戻る］を数回押して“*EXIT*”を選び、［決定］を押して設定を終える

アッテネーターを切り換える

アナログ入力で再生中、音が大きな時にひずんだように聞こえる場合は“*ON*”にしてください。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*ATTENUATOR*”を選び、[決定] を押す

● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。

3. [▲] [▼] を押して“*ON*”を選び、[決定] を押す

ON：入
OFF：切
初期設定：***OFF***

4. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

入力信号の判別方法を切り換える

“*AUTO*”（購入時の設定）でほとんどの場合問題なく再生できますが、以下のような場合には、入力信号の判別方法を切り換えてください。

● CD を再生して、曲の始まりが途切れる場合は、“*PCM*”（PCM FIX）に設定してください。
● DTS 信号を再生しても、信号が判別されない場合は、“*DTS*”（DTS FIX）に設定してください。
● ノイズが発生する場合は、“*AUTO*”に戻してください。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*INPUT MODE*”を選び、[決定] を押す

● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。

3. [◀] [▶] を押して入力を選び、[決定] を押す

入力：***TV***、***DVD***、***AUX1***、***AUX2***

4. [▲] [▼] を押して入力信号の判別方法を選び、[決定] を押す

AUTO：自動判別
PCM：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定
DTS：DTS のデジタルに固定
初期設定：***AUTO***

■ **手順 3 と 4 を繰り返し、設定を変更**

5. [戻る] を数回押して“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

購入時の設定に戻す（リセット）

本システムの設定を購入時の状態に戻します。

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*RESET*”を選び、[決定] を押す

● “*EXIT*”を選んで［決定］を押すと、設定モードを終了します。

3. [▲] [▼] を押して“*YES*”を選び、[決定] を押す

YES：リセットする
NO：リセットしない
● 中止するには“*NO*”を選びます。

お知らせ

- “*YES*”を選ぶと、すべての設定がリセットされ、自動的に入力が“*BD/DVD*”になります。
- “*NO*”を選ぶと、手順 2 に戻ります。設定モードを終了させるには、［戻る］を数回押して“*EXIT*”を選び、［決定］を押してください。

他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合

本システムのリモコンを使用すると他の機器が動作することがあります。その場合は、本システムのリモコンコードを“*REMOTE 1*”に切り換えてください。下記のリモコン操作で、**本体とリモコンのコードを同じ番号に設定します**。

本体側を設定する

1. [ー設定、切] を約 2 秒間押したままにする

設定項目が表示されます。（➜ 19 ページ）

2. [◀] [▶] を押して“*REMOTE*”を選び、[決定] を押す

3. [▲] [▼] を押して“*1*”を選び、[決定] を押す

初期設定：***2***
●リモコン側の設定を変更するまでは、設定モードを終了することはできません。そのまま、手順 4 に進んでください。
●リモコンコードを 2 にする場合は、手順 3 で“*2*”を選んで［決定］を押してください。

リモコン側を設定する

4. [決定] を押したまま [テレビ] を押す（2 秒以上）

テレビ：リモコンコード 1 にする場合
BD/DVD：リモコンコード 2 にする場合（初期設定）
●手順 3 で選んだコード番号と同じ番号を選んでください。
●リモコンコードを 2 にする場合は、手順 4 で [決定] を押したまま [BD/DVD] を 2 秒以上押してください。

5. [戻る] を数回押して、“*EXIT*”を選び、[決定] を押して設定を終える

お知らせ

本体側とリモコン側で違うコードが設定されている場合には、“*U30 REM2*”または“*U30 REM1*”のエラー表示が出ます。

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本システムには接続できません。
長時間使用すると、本システムが熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。ただし、後面の排気孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
デジタル接続で、DVD オーディオを再生しても音が出ない。	本システムは CPPM に対応していますので、HDMI ケーブルで接続すると、DVD オーディオの音声を楽しむことができます。（➜ 9 ページ）
サラウンドスピーカーを追加して接続できるか。	別売の SH-FX70 を使用して、ワイヤレス接続ができます。（➜ 12 ページ）
他のアンプやスピーカーを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

こんな表示が出たら

表示	調べるところ・原因・対策	ページ
CANCEL MUTING FUNCTION	● 消音中にテスト信号は出力されません。 消音を解除してから操作してください。	18
MUTING IS ON	● 消音中に常に表示されます。	18
NOT POSSIBLE FOR THIS INPUT SOURCE （スクロール表示）	● 二重音声には、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。	−
NOT POSSIBLE FOR THIS PCM SOURCE （スクロール表示）	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは、ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡは使用できません。 ● マルチチャンネル LPCM 信号には、SFC は使用できません。	15 15
SWITCH OFF POWER	● F70 □□□□が表示されているときは、電源以外の操作はできません。 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	−
TURN OFF DTS FIX MODE	● 各入力を DTS に固定（DTS FIX）しているときは、［−設定、切］を押して音場効果を切ることはできません。DTS 固定を解除してください。	21
U30 REM2 *U30 REM1*	● リモコンコードを設定し、本体とリモコンのコードを合わせてください。 “***U30 REM2***”が表示された場合、「他の当社製機器（ミニコンや AV アンプなど）が動作する場合」の手順 **4** でリモコン側の設定を“***2***”にしてください。 “***U30 REM1***”が表示された場合も、同じように手順 **4** でリモコン側の設定を“***1***”にしてください。	21
U701	● HDMI 接続した機器が、本システムの著作権保護に対応していません。	−
U704	● HDMI 接続で、本システムが対応していない映像フォーマットを受信しました。接続した機器の設定を確認してください。	−
U703	● HDMI 接続で異常があります。以下の処置をしてください。 それでも直らないときは、販売店にご相談ください。 −接続した機器の電源を「切 / 入」してください。 −HDMI ケーブルを抜き差ししてください。 −本システム出力側の接続台数が 2 台を超えないようにしてください。	−

本システムで再生できるデジタル信号

■ AAC
BS 放送など
■ ドルビーデジタル
ブルーレイディスクや DVD など
■ DTS
ブルーレイディスクや DVD など
■ PCM（2チャンネル）
CD や DVD オーディオなど
■ マルチチャンネル LPCM（リニア PCM）
ブルーレイディスクや DVD オーディオなど

お知らせ

- HDMI 接続している場合、サンプリング周波数が 48 kHz までのマルチチャンネル LPCM 信号と 96 kHz までの PCM 信号のほか、48 kHz を超えるマルチチャンネル LPCM 信号や 96 kHz を超える PCM 信号も再生することができます。（これらの周波数を超える場合は、いずれも再生機器側でダウンサンプリングして 48 kHz として再生されます。ただし、ディスクによっては再生できないものもあります。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。）
- 光デジタル接続している場合、サンプリング周波数が 48 kHz までのマルチチャンネル LPCM 信号と 96 kHz までの PCM 信号を再生することができます。
- 各信号について詳しくは「用語解説」（➜ 26 ページ）をご覧ください。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

仕様

■ アンプ部

実用最大出力
フロント（L ／ R）
90 W ＋ 90 W（1 kHz、4 Ω、JEITA）
サブウーハー　105 W（100 Hz、3 Ω、JEITA）
負荷インピーダンス
フロント（L／R）　4 Ω
サブウーハー　3 Ω
入力感度 / 入力インピーダンス
外部入力 3、外部入力 4　450 mV/47 kΩ
信号対雑音比（S／N 比）
BD/DVD、テレビ、外部入力 1、外部入力 2
80 dB
トーンコントロール特性
低音　50 Hz、+6 〜 − 6 dB
高音　20 kHz、+6 〜 − 6 dB
入出力端子

音声	
アナログ入力（外部入力 3、外部入力 4）	2
光デジタル入力（テレビ、外部入力 2）	2
映像・音声	
HDMI 入力（BD/DVD 入力、外部入力 1）	2
HDMI 出力（テレビ）	1

本システムは、ビエラリンク Ver.4 に対応しています。

■ ラックシステム部

(SC-HTX7)
寸法（幅×高さ×奥行き）
1240 mm × 444 mm × 512 mm
質量　約 35 kg
耐荷重量　80 kg
(SC-HTX5)
寸法（幅×高さ×奥行き）
1050 mm × 444 mm × 482 mm
質量　約 30 kg
耐荷重量　80 kg

■ スピーカーシステム部

フロントスピーカー部（L/R）
1 ウェイ 1 スピーカーシステム（バスレフ型）
6.5 cm コーン型フルレンジ× 2
サブウーハー部
1 ウェイ 2 スピーカーシステム（バスレフ型）
13 cm コーン型ウーハー× 2

■ 総合

電源　AC 100 V、50/60 Hz
消費電力（本体）　90 W

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.4 W
省待機電力モード時の消費電力	約 0.1 W

■ 動作使用条件

周囲温度　0 ℃〜 40 ℃
相対湿度　20 % 〜 80 %（結露なきこと）

注）
この仕様は、性能向上のため変更することがあります。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

故障かな！?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	11
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力信号を正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● 本システムで再生できるデジタル信号か確認してください。 光デジタルケーブルで接続した場合、サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM 信号は、正常に再生されません。 ● 機器が正しく接続されているか確認してください。 ● 別売の SH-FX70 を使用している場合は、デジタルトランスミッターとサラウンドスピーカーの接続を確認してください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***AUTO***”に設定してください。 ● 本システムの電源を「切 / 入」してください。 ● スピーカーのテスト信号、スピーカーの調整を行ってください。 ● 後面（アンプ部）のスピーカー端子コネクターがはずれていないか確認してください。 ● 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。	14 18 23 9～11 12 21 － 13、18 4 －
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
	DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	● DVD プレーヤーと本システムをデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。外部入力 3 または外部入力 4 にアナログ接続してください。	10、11
	DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	● ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリームであることを確かめてください。 ●「入力信号の判別方法を切り換える」で“***DTS***”に設定してください。	－ 21
	DVD オーディオを再生しても音が出ない。	● 光デジタルケーブルで接続した場合、著作権保護の理由などで音声が出ないディスクがあります。また、48 kHz を超えるサンプリング周波数の音声も再生されないことがあります。	－
	音が出なくなった。 （*“F61”*が約 1 秒間表示される。） 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて、電源を自動的に切ります。	● アンプの出力異常です。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ● カーテンや異物により、排気孔をふさいでいませんか。 ⇒ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。 （保護回路の動作が解除されます。） （それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	－ － － －
	*“F70 □□□□ ”*が表示される。 （□には“***DSP***”または“***HDMI***”が表示されます。）	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	－
	*“F76”*が表示される。 （表示したあと、電源が切れます。）	● 電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	－
音場効果	サラウンドで音が聞こえない。	● ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ を選択してください。 ●（テレビ音声が聞こえない場合）本システムとテレビを光デジタルケーブルで接続ができているか確認してください。	15 9、10、17
	ドルビーバーチャルスピーカー、SFC、ドルビープロロジックⅡ が使えない。	● サンプリング周波数が 48 kHz を超える PCM 信号のときは使用できません。外部入力 3 または外部入力 4 にアナログ接続してください。 ● デジタル放送の AAC 信号とドルビーデジタルの二重音声には使用できません。	10、11 －
	デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● テレビの音声出力を AAC に切り換えてください。	－
	テレビの音声が音切れする。	● 音切れする場合、テレビ側の音声出力の設定を AAC にしてください。	－
HDMI	HDMI 接続で、始めの数秒間の音声が再生されない。	DVD をチャプターから再生した場合に、起こることがあります。以下の処置をしてください。 ①ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤーなどのデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。 ②「入力信号の判別方法を切り換える」で“***PCM***”に設定してください。	－ 21
	正常に動作しない。	● HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続すると、正常に動作しません。接続し直すときは、一度電源を切り、電源プラグを抜いてから接続してください。	9

	こんなときは	ここを処置・確認してください	ページ
HDMI	ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。	●「ビエラリンク（HDMI）設定」で“***ON***”（連動するとき）に設定しているか確認してください。 “***OFF***”になっている場合は、“***ON***”に変更してください。	20
		● 省待機電力モードにしている場合、本システムの電源「切」時には、ビエラリンク（HDMI）が働きません。「本システムの電源「切」時の消費電力を下げる（省待機電力モード）」で“***ON***”（通常の消費電力）に変更してください。	19
		● 接続した機器側のビエラリンク（HDMI）の設定を確認してください。	–
		● HDMI 機器の接続を変更したとき、停電やコンセントの抜き差しをしたときなどにビエラリンク（HDMI）が動作しなくなる場合があります。このときは、以下の操作をしてください。 ・HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れ直す。 ・テレビ（ビエラ）の「ビエラリンク（HDMI）制御（HDMI 機器制御）」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定する。（詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。） ・テレビ(ビエラ)と本システムを HDMI ケーブルで接続して、テレビ(ビエラ)の電源を入れ、そのまま本システムの電源プラグを一度抜いてから接続し直す。	–
	設置時はテレビ（ビエラ）が映っていたのに、映らなくなった。	● 本システムとテレビ（ビエラ）のみの組み合わせでご使用の場合、本システムの“BD/DVD 入力”に HDMI ケーブルが接続されていないか確認してください。“BD/DVD 入力”に接続されている場合は、“出力（テレビへ）”に接続し直してください。	–
	地上デジタル /BS 放送の番組で初めの数秒間の音声が再生されない。	● テレビのサウンドを“オート”から“スタンダード”に変更してみてください。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書をご覧ください。	–
	DVD やブルーレイディスクなどマルチチャンネルの音声が入ったソースを再生しても“DD DIGITAL”や“DTS”の表示が出ない。	● ビエラリンク (HDMI) を使用している場合でスピーカー切換が「音声をテレビから出す」になっているときは、テレビ（ビエラ）のリモコンのビエラリンクボタンを押し、スピーカー切換を「音声を AV アンプから出す」にしてください。	16, 17

用語解説

アナログ
一般的な再生機器に装備されている左（L）/ 右（R）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

ウィスパーモードサラウンド
小音時でも通常音量時と同じような臨場感のあるサラウンド再生が楽しめる機能です。夜などの視聴時に便利です。

サラウンド信号
フロント、センター、サラウンドチャンネルで構成された音声信号です。本システムでは､サラウンド信号は自動的にドルビーバーチャルスピーカーで再生します。

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み､刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。１秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、回数が多ければ多いほど原音に近い音を再現でき、高音質になります。

スタンバイスルー機能
本システムとテレビ、レコーダーを HDMI ケーブルで接続すると、本システムの電源を切っても、レコーダーからの映像 / 音声信号が本システムを通過して、テレビへ伝送される機能です。
深夜の視聴など、テレビのスピーカーだけで楽しみたいときに便利です。x.v. Color や Deep Color で記録された映像にも対応しています。

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズにうもれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンサンプリング
ある周波数でサンプリングされた信号をより低い周波数で再サンプリングすることです。

デコーダー、デコード
DVD などに符号化して記録した音声データを通常の音声信号に戻す装置をデコーダーといいます。また、この処理をデコードといいます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、ブルーレイディスクレコーダー、ブルーレイディスクプレーヤー、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、CD プレーヤーなどに装備されています。ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聞くときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

番組ぴったりサウンド
本システムにビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応のテレビ（ビエラ）とレコーダー（ディーガ）を組み合わせると、番組情報に合わせて自動でサウンドを切り換えることができます。

オプティカル
光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光デジタルケーブルを使用して接続します。アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に光（OPTICAL）端子がある場合に使用できます。

AAC 信号
BS デジタル放送や地上波デジタル放送に採用されている圧縮音声です。サラウンド音声を再生できます。

CPPM
コンテント プロテクション フォー プリレコーディッド メディア
Content Protection for Prerecorded Media の略。
DVD オーディオのファイルコピーを防止する著作権保護技術です。

ディープ カラー
Deep Color
対応するテレビやレコーダーなどに接続することで、より幅の広いカラーグラデーション（4096 段階）を再生することができます。滑らかで複雑なグラデーションを表現し、縞模様状に見える色の変化を最小限に抑えた、抜群に深みのある、自然に近い色をお楽しみいただけます。

ドルビー デジタル
Dolby Digital
ドルビー社の開発したデジタル音声の圧縮方式です。ステレオ（2 チャンネル）はもちろん、サラウンド音声にも対応しており、大量の音声データを効率よくディスクに収めることができます。

ドルビー プロ ロジック
Dolby Pro Logic Ⅱ
ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネル で記録されたあらゆる信号を、よりリアルな音場で 5.1 チャンネル 音声に変換します。従来の 2 チャンネル 音声（モノラル音声は除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネル の迫力ある音声で楽しめます。本システムでは、ビデオや CD などのステレオ信号にサラウンド効果をつけるときに使用されます。

ドルビー バーチャル スピーカー
Dolby Virtual Speaker
フロントスピーカー、サブウーハーだけで、サラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり､5.1 チャンネルにおける理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現します。

ディーティーエス デジタル シアター システム
DTS（Digital Theater Systems）
映画館で多く採用されているサラウンドシステムです。チャンネル間のセパレーションが良く、リアルな音響効果が得られます。

HDMI
ハイ デフィニション マルチメディア インターフェイス
HDMI は High-Definition Multimedia Interface の略です。
１本のケーブルで映像と音声のデジタル信号が伝送できます。
また、コントロール信号も伝送できます。

エルピーシーエム ピーシーエム
マルチチャンネル LPCM（リニア PCM）
圧縮せずにデジタルに置き換えられた音声信号です。ブルーレイディスクや DVD オーディオなどでは、マルチチャンネルの LPCM が使われており、より高音質な再生が可能です。
本システムでは、7.1 チャンネルまでの LPCM を入力することができます。さらに､別売の SH-FX70 を接続すれば､7.1 チャンネルをより広がりのある音場効果で楽しめます。

ピーシーエム パルス コード モジュレーション
PCM（Pulse Code Modulation）
アナログ音声を圧縮せずにデジタル音声に変換する方式の１つです。
音楽 CD などで使われている方式です。

カラー
x.v.Color
広色域色空間の国際標準規格「xvYCC」に準拠した製品の名称です。本システムは、x.v.Color に対応しています。

1080p
デジタルハイビジョン映像の 1 つです。
実際の画面を構成する有効走査線数は 1080 本で、細部まできれいに表現されます。また、上から順に走査するプログレッシブ方式で、ちらつきの少ない画像になります。本システムは、1080p に対応しています。

5.1 チャンネル サラウンド
「モノラル」は 1 つのスピーカーで、「ステレオ」は 2 つのスピーカーで音声を再生しますが、5.1 チャンネルサラウンドでは 5 つのスピーカーと 1 つのサブウーハーが使われます。
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5 チャンネル、サブウーハーは他のスピーカーよりも再生できる音域が狭いため 0.1 とし、すべてを使って再生することを 5.1 チャンネルサラウンド再生と言います。
本システムでは、ドルビーバーチャルスピーカーで、5.1 チャンネルで聞いているような音響効果を楽しむことができます。

安全上のご注意（必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

気をつけていただく内容です。

⚠ 警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

電源プラグを抜く

異常があったときには、電源プラグを抜く

- **煙が出たり、異常なにおいや音がする**
- **音声が出ないことがある**
- **内部に水や異物が入った**
- **電源プラグが異常に熱い**
- **本体に変形や破損した部分がある**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

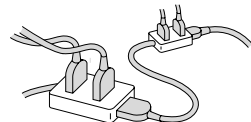
電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

そのまま機器の中に放置すると、電池の液もれや、発熱・破裂の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

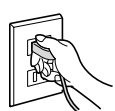
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

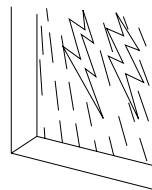
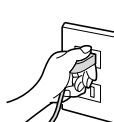
分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警告

電池は誤った使いかたをしない

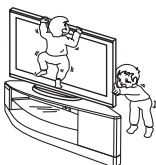
- 指定以外の電池を使わない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中へ入れたりしない
- ⊕ と ⊖ を針金などで接続しない
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに保管しない
- ⊕ と ⊖ を逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 被覆のはがれた電池は使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になります。

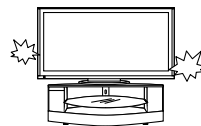
- 電池には安全のために被覆をかぶせています。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。

電池の液がもれたときは、素手で液をさわらず、以下の処置をする

- 液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと医師にご相談ください。
- 液が身体や衣服に付いたときは、皮膚の炎症やけがの原因になるので、きれいな水で十分に洗い流したあと、医師にご相談ください。

テレビは転倒防止の処置をする

地震やお子様がよじ登ったり、背面よりもたれたりすると、転倒しけがの原因となることがあります。

- 安全のため、必ずキャスター座を取り付け、転倒防止バンドでテレビとラックを固定してください。
- テレビは、壁にも固定してください。

設置したテレビがはみ出した場合、当たらないように注意する

倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

回転機能付きの据置きスタンド使用時は、ラック天面より据置きスタンドがはみ出さないように設置し、回転範囲内に手や物を置かない

落下や指をはさんでけがの原因となることがあります。

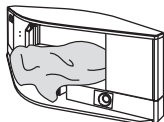
- 特にお子様にはご注意ください。

回転機能付きの据置きスタンド使用時は、テレビが壁に当たらないようにラックを壁から離して設置する

指をはさんでけがの原因となることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

⚠ 注意

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になることがあります。

- 後面の排気孔をふさがないでください。

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

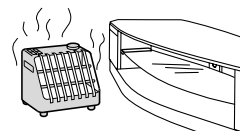
油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

ラックやガラス棚の上に乗ったり、座ったりしない

落ちたりして、けがの原因になることがあります。

- 特にお子様にはご注意ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

本システムのイラスト（姿図）は、イメージイラストであり、ご購入のものとは形状が多少異なる場合がありますが御了承ください。

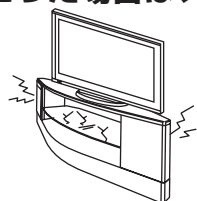
⚠ 注意

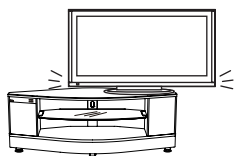
長期間使わないときは、リモコンから電池を取り出す

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

キャスター（車）には注油しない

キャスター（車）のひび割れ、破損の原因となり、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

万一、ラックやガラスに変形・ひび割れ・割れが起こった場合は、使用しない

そのまま使用すると倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- すぐに販売店へご連絡ください。

テレビは、片寄った載せかたをしない

倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。

ラックの設置時には、指をはさまないように注意する

指に注意

けがの原因になることがあります。

キャスター付きラックを移動するときは、キャスター座を取り外す

キャスター座を取り付けたまま移動すると、倒れたり、破損してけがの原因となることがあります。
- 段差のあるところやじゅうたんなどの柔らかいところでは、特にご注意ください。
- キャスター座の取り外しは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックの移動や設置時に、ラック下部の隙間内に足先を入れない

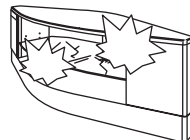
けがの原因となることがあります。

付属の小物部品（ねじ等）は、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

スピーカーは内蔵のものを使用する

内蔵以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

ガラスを傷つけたり、衝撃を与えない

ガラスは強化ガラスです。使い方を誤ると割れる恐れがあり、けがの原因となることがあります。
- 鋭利なものや、とがったものなどで傷をつけないでください。
- 強化処理をしたガラスは、傷が入った状態で長期間ご使用になりますと、傷が進行し自然に破損することがあります。
- 傷が入った場合は、販売店に相談して、新しいガラスと取り替えてください。

天板・棚板・底板には指定した質量以上の機器を載せない

ラックに載せられる質量を超えて長期間使用されますと破損してけがの原因となることがあります。
- 天板は 80 kg、棚板・底板は 12 kg を超える機器を載せないでください。
- 天板には、テレビ以外の物を置かないでください。

不安定な場所に置かない

- **高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない**

倒れたり落下すると、けがや製品の故障の原因になることがあります。

設置や移動、またはキャスター座の取り付けは2人以上で行う

1 人で無理に行うと、腰を痛めたり、けがの原因になることがあります。
- キャスター座の取り付けは、必ず本文の説明に従って行ってください。

ラックを搬送したり、キャスターを取り外してラックを移動するときは、必ず指定された部分を持って行う

指定された部分以外を持って移動すると、けがの原因になることがあります。
- 持ち方については、必ず本文の説明に従って行ってください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

24、25 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。右記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話させていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番		故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

パナソニック 修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/ひかり電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話 フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック

修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/ひかり電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区

地域	住所	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通16丁目1166	☎(0166)22-3011
帯広	帯広市西20条北2丁目23-3	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	住所	電話
青森	青森市大字浜田字豊田364	☎(017)775-0326
秋田	秋田市外旭川字小谷地3-1	☎(018)868-7008
岩手	盛岡市厨川5丁目1-43	☎(019)645-6130
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	郡山市亀田1丁目51-15	☎(024)991-9308

首都圏地区

地域	住所	電話
栃木	宇都宮市上戸祭3丁目3-19	☎(028)689-2555
群馬	前橋市箱田町325-1	☎(027)254-2075
茨城	つくば市筑穂3丁目15-3	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区末広5丁目9-5	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9700
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5822
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東区東明1丁目8-14	☎(025)286-0180

中部地区

地域	住所	電話
石川	金沢市玉鉾2丁目266番地	☎(076)280-6608
富山	富山市根塚町1丁目1-4	☎(076)424-2549
福井	福井市問屋町2丁目14	☎(0776)21-0622
長野	松本市寿北7丁目3-11	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市葵区千代田7丁目7-5	☎(054)287-9000
愛知	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岐阜	岐阜市中鶉4丁目42	☎(058)278-6720
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	津市久居野村町字山神421	☎(059)254-5520

近畿地区

地域	住所	電話
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目1-48	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)646-2123
大阪	大阪市城東区関目2丁目15-5	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市須磨区弥栄台3丁目13-4	☎(078)796-3140

中国地区

地域	住所	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山市田中138-110	☎(086)242-6236
広島	広島市西区南観音1丁目13-5	☎(082)295-5011
山口	山口市小郡下郷220-1	☎(083)973-2720

四国地区

地域	住所	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-6388
徳島	徳島市沖浜2丁目36	☎(088)624-0253
高知	高知市仲田町2-16	☎(088)834-3142
愛媛	愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1	☎(089)905-7544

九州地区

地域	住所	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1919-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	天草市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	奄美市名瀬朝仁町11-2	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	住所	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。　1108

さくいん

—このマークがある場合は—

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

愛情点検

長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を！

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音声が出ないことがある ● 内部に水や異物が入った ● 本体に変形や破損した部分がある ● その他の異常や故障がある	▶	ご使用中止	**故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

販売店名	☎（　　　）　　　–	品番	
お客様ご相談窓口	☎（　　　）　　　–	お買い上げ日	年　月　日

パナソニック株式会社　AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT9384-4S

H1208RT4049